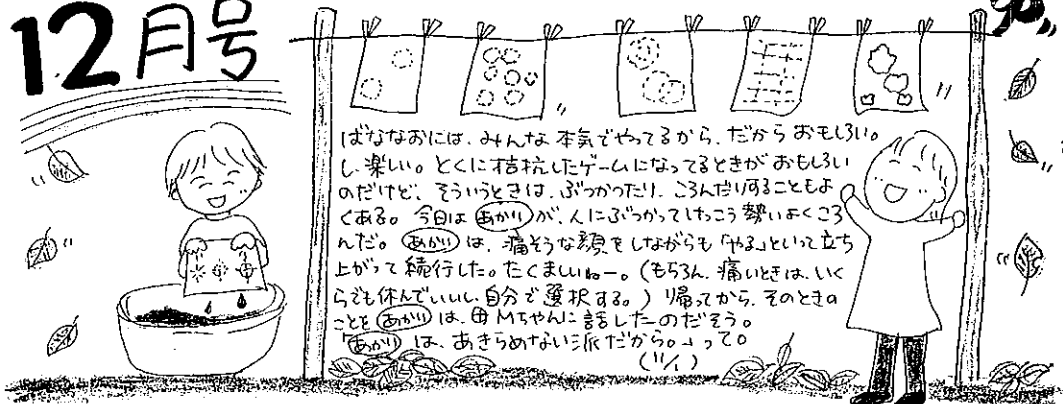
こびとのおうちえんLetter 12月号

令和4(2022)年12月6日 発行　第140号



ばななおには、みんな本気でやってるから、だからおもしろい。し楽しい。とくに拮抗したゲームになってるときがおもしろいのだけど、そういうときは、ぶつかったり、ごろんだりすることもよくある。今日は(あかり)が、人にぶつかっていこう勢いよくころんだ。(あかり)は、痛そうな顔をしながらも「やる」といって立ち上がって続行した。たくましいねー。(もちろん、痛いときは、いくらでも休んでいいし、自分で選択する。)帰ってから、そのときのことを(あかり)は、母Mちゃんに話したのだそう。「(あかり)は、あきらめない派だから。」って。(11/1)

あっきーのコーナー

うちの小3の娘は、お泊まりが苦手だ。人生初のお泊まり、1年生の夏の馬島キャンプでは、夜、"家に帰る〜"と大泣きして、"船ないから泳いで帰ったら"と言われあきらめたそう。2回目のお泊まり、久住登山キャンプでも、真夜中になっても眠れず…まあみんに露天風呂に連れてってもらったらしい。(お世話になりまま。)回を重ねるごとに慣れていき、"今回はちょっと眠れた〜"と帰ってくるようになり、"やっぱり家の布団であき(私)と一緒に寝るのが一番"とかわいいことを言うのだが、身体が大きくなってきているので、布団1組に2人で寝るには、う…せまい…というのが、こちらの本音。

そんな彼女が先月、目をキラキラさせて「ワラの家すごくいいのができたから泊まりたい!」と言い出した。びっくり仰天!　てらこや恒例・ワラの家づくりからのキャンプのことで、1・2年の時はまったく興味もなかったのに。

聞いてみると、一人でつくった一人用の家なんだと。

私)「え!ひとりで寝れるん!?」　娘)「大丈夫!眠れんでもいいから泊まりたいの!」

びっくり仰天である!すすごい…眠れないつらさより、一人で寝る不安より、泊まりたいワクワクが勝ったんだ。

結局UFOさわぎで怖くなり、他の子の家で一緒に寝たようだし、顔中30か所ほど蚊に刺されていたが、とても満足そうに帰ってきていろいろ話を聞かせてくれた。

後日、田んぼにワラの家を一緒に見に行くと、あちこちにワラの家が建ってる中、娘の家はすぐわかった。130cmの娘が足を伸ばして横になってギリギリ収まる小さな家。寝るスペースとご飯を食べるスペースのみ。どうやって寝るか、お弁当を食べたのかを再現して見せてくれた。

私はじわ〜っと感心していた。彼女が一人でこの家をつくり上げた過程に、最後まで楽しんで遊びきった姿に。

ワラの家、実は一人でつくる子は少ない。ほとんどの子は一緒につくる人を見つけてから始まる。仲間を見つける理由はたくさんあるだろう。一緒にやった方が楽しい、人数がいる方が大きな家ができる、とか、そして、みんなで作る方が安心(一人でつくるのに不安がある)ということもある。

おうちえんでのワラの家づくりは、基本、自分たちのお家は自分たちで作ろうね〜のスタンスをとっている。スタッフに「一緒にお家つくろ〜」と誘ってくる子もいるが、お断りして、お手伝いが必要なときは呼んでね。困ったときは相談にのるよ〜と伝える。大人の手が入ると一気に変わってしまうし、子どもたちが自分で考えたり工夫することを大事にしているからだ。

どこに建てるか、から始まって、家の大きさ、壁・屋根・入り口、どう組み立てるか、決めることがたくさんあり、稀(なる)(船)とワラを集める、ひもやワラで結んで固定、ワラを積んだり掛けたり敷きつめたり、と動いてようやくワラのお家は完成する。(一人一人それぞれの性格や器用さがでて、本当にその子らしいお家ができるからおもしろい。)

彼女は、それを一人でやり切って、「いいお家ができた!」という嬉しさが、泊まりたい!というワクワクになって、苦手も不安も軽く乗り越えていったんだなぁと思うと、娘がひとまわりと成長したようにみえ、頼もしく感じた。

浜口昭子

＝12月のスタッフプラン＝

・くさぎの実で染めもの

12日(月)おべんとうのひ

弥山に登ろう!!

おべんとうの準備をお願いします。
詳細はメールでお知らせしたとおりです。

＊12月のペアレンツグループ＊

14日(水)　13:00〜15:00
場所　もみじのいえ
内容　絵をつかったイメージあそび
持ちもの　クレパス
※参加の方は事前にご連絡下さい。当日でもOKです。

11月はこんなことしました

- うんどうかい
- カブトムシの幼虫さがし
- さつまいもほり
- しいのみひろい
- えほんやさん
- ホウレン草の収穫(年長児)(ぶじわさんの畑へ)
- 山の広場でみんなでキッチン
- ちょうちょ、カブトムシに変身
- 赤子山にのぼる
- 新マラソンコースを測る
- マラソン
- ばななおに
- 船岩寺へいく
- キウイとり
- 萩原コースぐるりさんぽ(年中・少児)
- フユイチゴつみ
- どんぐりコマ作り
- らっかせいとり、ゆでる
- 石城山にのぼる
- 山たんけん　etc…

おしらせ

冬休みは、R4 12/28(水)〜R5 1/4(水)です。

ようこのちょこっとようちえん日誌〜日々のあれこれ〜

(ゆづき)が放課後、絵本の前にすわり、絵本を何冊か出して、「どの本がいいですかー?」えらぶとピッとバーコードをよむ機械が鳴る音。そして、「はい、どうぞ。」なんだか楽しかった。えほんやさんごっこ、もっとやりたいなと思ってた。次の日、(ゆづき)のやりたいことは「ほんやさんごっこ」やっぱり!(かのん)が一緒にやりたいという。おひるからおにわで、まずは絵本をつくらなくちゃ!とテーブルを出して絵をかきはじめる。すごく集中してる。(かのん)は、どんどんアイデアがうかんでとまらない。しゃべってることばが描かれていてたのしい。(ゆづき)も、さいしょは、どうしようかなーとまってたけど、だんだんかきたいものがでてきた。カラフルですてきな作品たち。かわいい作品たち。そして何枚かをとじて1冊になる。2人とも2、3冊しあげたかな。できなかった分は、(ゆづき)は、おうちにもってかえってしあげてくる。(かのん)は、明日の朝、来てかく。という。えほんやさんは明日だね。

次の日、えほんやさんしたい、と(あかり)もまじる。そして、(かのん)は、作品の仕上げ、(ゆづき)はお店を出す場所をきめて、本を並べて、接客の練習。がんばんもかく。えほんやさんの名前は、えほんのみせ「はなび」という。(ゆづき)は、ピッとするきかいも段ボールでつくった。

(あかり)は、1枚をとってもとっても描き込んでる作品をおひるまでずーっとかいていた。4枚の絵。2冊の本になった。わたしは、買ったくれたんが入れる袋とおみせのシールをつくった。あとは白紙の本。買った人が自分でえほんがつくれるように。

午前中は、皆やりたいことの場所へ、山の広場、山たんけん。午後、ごはんのあと、えほんや南店。並べた10冊の本。それを買いたい人がパラパラめくる。「まよう〜」と大人たち。(ふう)は中身をみて、ちゃちゃっときめて「これがいい」とご購入。気にいってながめてる。ほんとにまようほどすてきな作品ばかり。

完買。私の手元にはのこらなかった!ざんねん!

いや、みんなは全部売れてとてもうれしそうだった。すてきな青空絵画屋さん。こんなのがだいすき。(11/1)

年長さんがホウレン草をとりにいかせてもらった。とてもていねいに上手に収かくしたようだ。野菜をていねいにあつかえるというところが、ほんとにうれしい。年中、少さんのさんぽもよかったのだ。(しょう)が自由だ!ダイナミックに動かしてるぞー!(かいと)もいいかんじ。(ぎんつき)も2人に触発されてどんどん重かいてる。(かほ)も忍者みたいに山をかけあがったりおりたりしている。ワイルド。(ふう)(うた)(こと)も今日は、大きい子たちがいないから、自分のペースでゆっくりつみをたっぷり楽しめた。(うた)が、たくさんのイチゴをちょっぱりづつ食べながら、とろけそうな顔をしている。

みんな元気!

ああ、少し年年感がみえたのだ。

へんにこだわらず、さらさらと、そしてすなおに主張もする、用いている。そんな年中さんたちがいた。よく歩いた!よく走った!(11/22)

ピーナッツをあっきーんちにほりにいった(ぎんつき)(かいと)(たまき)(ひろのぶ)

1ほったピーナッツを1つ1つもぎながら、「1粒だね」「これ、2粒だね」と会話。カブトムシの幼虫にみえている?!(11/14)

(ゆづき)の即興のうた「しいのみのうた」がめちゃはやっている。(ようこがちょこっとだけアレンジ)

「しいのみ しいのみ しいのみ
かぞえきれないほどとれて
ポケットからぜんぶおちて
きづかずかえった」(11/8)